

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490200088		
法人名	社会福祉法人 泰生会		
事業所名	グループホーム「リベラ・ホームおぐら」		
所在地	別府市大字鶴見字小倉1665番地164		
自己評価作成日	令和5年5月23日	評価結果市町村受理日	令和5年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和5年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの認知症の方の持っている力を最大限に引き出し、自分らしく生活をしていけるような環境作りや支援を行なっています。また、ご家族との連携を図り、利用者と家族との結びつきを大切にするため、日々情報交換を行っています。また、地域の行事に参加するだけではなく、施設の行事等には声をかけ参加や協力して頂く関係づくりに取り組んでいます。当施設ではグループホームを単に小さな家庭的な施設と考えるのではなく、ノーマライゼーションの理念を達成するための施設解体のプロセスの一里塚と捉え、グループホームを核にした地域ケアを最終目標に、「老いても安心して暮らせる街づくり、人づくり、地域福祉生活文化づくり」を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ご家族との情報交換を密に行い、本人が自分らしくしたいことができるように支援している。
2)居室内は排泄用具などを目に付くところにはおらず、個々の尊厳が守られている。
3)事業所内で主食やみそ汁は炊くので、五感が刺激され食欲がそそられる。また、本部から運んでくる食事は栄養バランスの良い献立となっている。
4)地域との連携が密に行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で、利用者本位に途切れない支援」を理念とし、それに沿うケアを心がけ日々努力している。	理念は入職時に説明している。年に1回、理事長が理念について勉強会を実施している。理念をもとに、なかなかできなかった(控えていた)外出や地域及び他施設との交流を今後復活していく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和2年度より新型コロナウイルス感染予防の為、地域の行事への参加及び地域住民との交流を中止している。	小倉地区の自治会を通しての行事は中止していたが、再開の方向で話し合いをしている。日常的にも散歩の途中で挨拶する程度であったが交流も増やしていく予定。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民を対象とした「介護者教室」を感染症の流行状況をみて開催している。令和4年度は5回実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている会議で近況報告及び今後の予定についての意見を頂きながら、さらなるサービス向上に努めている。感染症予防の為、開催できない場合は文書にて委員から意見を頂いている。	感染状況を確認しながら開催している。意見としては、家族との面会のこと、家族会が開催できないことなどの意見が多かった。開催できないときは資料を送付して書面開催とした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点等は、市担当者へ連絡をとり助言等を頂いている。また、運営推進会議に可能な限り出席して頂き、実践状況を知って頂くようにしている。	市から運営推進委員として毎回参加がある。事業所内行事を継続している事は行政から他事業所と比べて長所として話があった。疑問などは担当者へ電話で助言をいただくなど連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回以上の職員勉強会、年4回の身体的拘束適正化委員会を開催している。また、個人で行う「自己チェック票」に身体拘束に関する項目を設け日頃のケアで意識するように取り組んでいる。	年4回、身体拘束適正化委員会を開催している。出席できない職員には議事録を配布している。各自で自己チェック表を用いて、日常のケアで意識するよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員勉強会を行っている。年2回以上虐待防止対策委員会を開催している。個人で行う「自己チェック票」に虐待に関する項目を設け日頃のケアで意識するように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居の際や相談に対して説明を行い、支援が必要と思われる利用者の家族については助言を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族等に重要事項の説明を行い、納得の上契約を行っている。また、解約の際は不安な点や不明な点について尋ね、状況に応じて対処している。利用中も同様に不安や問題点が解決できるように時間をかけ説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理に関する説明を重要事項に明記、掲示し苦情等のご意見箱を設置している。また、福祉サービス改善委員会を開催し家族代表に委員をお願いしご意見を頂き運営に反映している。その他、年1回ご家族へのアンケートも実施している。	面会に見える家族とは必ず職員が話をする。年2回実施していた家族会が開催できなかったため、アンケートを送付し、出された意見を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のミーティングを職員の意見交換を行う場として活用している。また、定期的に全職員が集まり意見交換を行う場を設けている。	週1回のミーティングには理事長も参加している。マニュアルなどの見直し、毎日の気づきを記入し、理事長がチェックしている。書類を簡略化することで利用者支援の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は頻繁に現場に顔を出し、自ら利用者と過したり職員の業務についての把握を行っている。自己チェックや振り返りシートを基に職員の意欲等を把握し向上心を持って働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修参加を積極的に行っている。法人内の研修内容は研修委員会にて職員の意見を聞きながら反映している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に入会し研修会や交流会に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを十分に行い、入所後に予想される変化を出来るだけお話して理解頂けるようにしている。不安のある方には体験的にご利用して頂き不安を解消してから入居して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前のアセスメントを十分に行うように配慮している。また、実際に利用前に施設を訪問して頂き、雰囲気を見て納得した上で利用して頂くようにしている。家族と利用者それぞれの思いを確認し、今後のサービスの方向性を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の抱えている悩みや不安を少しでも取り除けるような配慮を行い、改善に向けたプランの揭示を行う。単独での援助が困難な場合は地域包括支援センターや他事業所との連携を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であることを意識し、利用者から学ぶ姿勢を忘れないように心がけている。利用者の思いを知ることにも務め、持っている力を発揮できるような場面を想定し援助し共に支えあえる関係作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者だけでなく、家族からもアセスメントを行うことで職員が理解し利用者の持っている力を引き出すことができると考えている。利用者や家族の思いを知る事に努め共に支え合える関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意向を確認したうえで、友人知人からの訪問の受け入れを積極的に行っているが、感染症予防の観点から一時的に制限を行っていた時期がある。	感染対策に留意しながら、オンラインや面会する人の人数制限をして、交流はできていた。緩和されてから家族以外の方の面会も受け入れている。また、2か月に1回の広報誌を送付する際に、日常生活の写真を撮って家族に送付している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体的なレクリエーションや気の合う同士で過ごされる時間が作れるよう配慮している。また、日々の状況の中で感情が変化する利用者の状況に職員が配慮し、利用者同士が上手にいくように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談等あればいつでも応じることができる旨を説明。在宅復帰後を利用者の担当在宅ケアマネとの連携を図りながら支援できる体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを行い、利用者の言葉や表情等から思いをくみ取りながら把握に努めている。本人にとってどのような生活が望ましいのかを家族と検討しながら行っている。	毎日、気づきノートに利用者の思いやしたい事などを書くようにしており、いつも、より深く利用者に関わることにつながっている。記録を全員で共有し、ケアプランや行事、日常生活の中の支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にアセスメントを十分に行えるように配慮する。また、日々の生活の中で本人が語って頂けなかった思いを会話中にさりげなく聴き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解するため、行動や小さな動作から利用者の現状に努め「出来る事」「一人では困難な事」を把握し「出来る事」を増やすために必要な本人の能力を引き出す観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族には日頃から思いや意見を聞き反映させる努力をしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換や定期的なモニタリング・カンファレンスを行っている。	利用者の意思や思いが良く記録されており、家族とは日ごろから連携が取れているので思いや意見が反映されている。職員間では定期的にモニタリングやカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画に沿って日々の様子を色々な視点から記録を行っている。また、就業前に必ず申し送り簿等の確認を義務付けしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子を観察し、変化に気づけるよう気づきチェックを活用している。気づきチェックの内容はミーティングにおいて職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和2年度以降は感染症予防の為、地域との交流、ボランティアの受け入れ等は実施できなかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者からのかかりつけ医に受診できるように家族等との連携をとっている。	本人家族の希望を聴き、入居前からのかかりつけ医となっている。特に希望が無ければ協力医としている。受診時は原則として家族対応となっているが、状態に応じて職員が同行することもある。また、月に2回、協力医の訪問診療もあり、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は利用者の健康状態や状況の変化に応じた支援が行えるようにしている。看護師との24時間オンコール体制を構築し、かかりつけ医の看護職員ともに連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による環境の変化を極力回避するために医師や医療相談員連絡を取り合い利用者の混乱が少なくなるように医療機関へ普段の様子等の情報提供をしている。また、できる限り早期に退院できるように調整している。令和4年度は入院者なし。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス開始時から重度化・終末期についての話し合いを行っている。状態の変化がある程度、家族に説明する等連携をとりながら支援を行なっている。	利用開始時より、重度化や終末期について家族に看取りはしないことを話している。状態変化の場合はその都度話し合いを行い、重度化及び終末期になれば家族の望む病院及び施設への住み替えをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、周知徹底を行っている。適切にマニュアル等の見直しを行いながら全職員が緊急時や事故発生に対する訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し月1回の防災訓練を定期的に行っている。また、消防署や近隣施設等に災害時の応援をお願いしている。	年間計画を立て、職員の招集訓練を年1回、防災訓練を利用者と一緒に月1回実施している。火災については消防署と連携し通報訓練も実施している。コロナ禍で地域住民と一緒にできなかったが、今後は再開していく予定である。別府本部に食料、水が備蓄しており、夜間は夜勤者以外に専従の当直者が配備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇、プライバシー保護に関する職員勉強会を実施している。また、「自己チェック票」を記入し、自ら振り返ると共に利用者に対する他職員の対応を評価し合えるシステムがある。	半年に1回、理事長と事務長が職員の自己チェック表を確認している。職員はその時々に応じた声かけを行っている。排泄も全員自室のトイレを使用し、個々の状態に合わせ見守りや介助を行いプライバシーは保たれている。また、職員間で対応の評価をしあえるシステムがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉の説明だけでなく、具体的に視覚に訴える等の配慮を行いながら、自身の力を発揮できる支援を行なっている。また、利用者に合わせた声かけを行い出来る限り複数の選択肢を提示し、自ら選ぶ事ができるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者の体調や気持ちを尊重しその方のペースで生活ができるような支援を行なっている。施設で企画した行事やスケジュール等に全員参加する必要はなく、利用者の希望により行動して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は基本的に自分で決め、勝因が見守り支援を行い、その方らしい身だしなみができるように支援している。「日常」と「晴れの日」を大事にした生活に配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食が基本であるが、毎月1回以上の料理作り、おやつ作りを実施している。出来る方には調理や盛り付け、片付け等を共にやっているが、感染症予防の観点から制限を行った時期あり。	基本的に本部から運んでくるが、朝食とみそ汁は事業所内で作る。月に1回は利用者の食べたいものを職員と一緒に作業分担しながら作っている。夏祭りは焼きそば、月に1回はケーキ作りなど、作ることと食べることが楽しみにになっている。片付けも職員と一緒にできることを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	初回アセスメント時から、嗜好品等の聞き取りをし利用者の好みに応じていつでも飲み物が提供出来るように整えている。毎食毎回の摂取率や飲水量を記録し状況の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員勉強会を行っている。毎食後と就寝準備に、自室にお誘いし口腔ケアと義歯洗浄の促しや確認をしている。利用者の状態に応じて見守りや介助を行っている。令和5年度より定期的な歯科往診の実施を開始する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で個人の習慣や排泄パターンを把握。トイレ排泄する事を念頭に置き環境整備し支援している。また、利用者の自尊心を傷つけないよう配慮した声かけ等で誘導している。	日中は全員が自室のトイレを利用している。排泄用具も個々の状態に合わせて利用し、声かけや介助による排泄支援ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳・乳製品を取り入れる、水分を十分に摂って頂く工夫をしている。自然排便を促すために日常的に身体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3日入浴日としているが、希望によりいつでも入浴は可能である。体調不良や入浴日以外は清拭更衣で清潔を保持する支援を行っている。裸になる不安や羞恥心等を配慮しながらの援助に努めている。	週3回の入浴となっているが希望すればいつでも入浴できる。岩風呂で3槽あり、通常は2槽を使っている。温めと熱めなど好みに応じて利用している。入浴時は職員2人体制で対応し、体調不良時は清拭や足浴などで清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの生活パターン、体調、希望を配慮し支援を行ない、昼間や朝の起床時間や就寝時間に幅を持ち自由な時間での休息をとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をケースに整理し職員が把握できるようにしている。誤薬防止の取組をした上で、確実に服薬できる支援を行なっている。利用者の状態に合わせて適宜処方検討を主治医、家族と行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のアセスメントを行い、利用者ができることを活かした支援を心がけ自分らしさを発揮できるような役割分担を行い、利用者自らが楽しめる援助を心がけている。今ある能力の維持が出来るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防の為、外出は基本ドライブのみで実施することが多かった。天気や利用者の状態・希望により近隣の散歩を行っている。	感染予防に努めながら個々の状態に合わせて距離や方向を決めている。玄関前でのお茶のみや車いすでの近隣の散歩、ドライブでの車窓からの眺めを楽しんでいただくなど外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より現金をお預かり管理している。感染症予防の為、買い物ができなくなったので職員が代理で利用者が希望する物を購入している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に協力を得て、年賀状を出すことを支援している。LINEを使ったテレビ電話で利用者と家族が連絡を行っている。また、誕生日や敬老の日等でご家族よりプレゼントが届いた場合はお礼の電話を利用者から行うようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	総合思い出活動として五感への刺激を大切にしている・利用者にとってストレスにならないか、常に意識して援助している。職員のみならず、運営推進委員の方など、外部の方にも意見を求めながら、利用者にとって負担のない環境作りを心がけている。	調査日の翌日が事業所の夏祭りなので玄関フロアには万国旗が飾られている。共用空間には利用者の作品が置いてあり、週1回の生け花教室の作品の花々も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態の変化や利用者同士の関係の関心に配慮しながら一人で過ごせる時間や空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と話し合い、今までの生活が継続できるように馴染みの家具や思い出の品を使って頂いている。居心地の良さと安全を第一にした環境整備にも努めている。	居室は20畳あり広々としている。持ち込まれた家具、テーブルやソファ、テレビや時計などが置かれている。利用者の作品や思い出の品々が置かれており、それぞれが個性的な設えになっている。排泄用具などを目に付くところに置かず、個人の尊厳を保ち、来訪者もゆっくりとくつろげる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使い勝手の良い物と言う視点で援助している。また、個々の状態や能力を把握しテーブルの高さ等を考慮し席の配置を常に検討している。自立支援を意識した介護を実践している。		